☆倉橋賞受賞論文☆

# 保育者養成における シミュレーション的手法の利用

阿部智江
志賀政男

## 一、はじめに

ここ数年来、各界における教師教育への関心がとみに高まっている。昭和五十三年九月に出された教員養成審議会の答申や、各教育関係学会のシンポジウム・分科会において、教育実習の在り方、教職課程の内容、現職教育の在り方などについて、数多くの検討や討議が加えられてきており、これからの研究と実行に待つものが多い。

教師養成を考える場合、学生が教育の理論と具体的実践との対応関係を学習して初めて、教師としての基礎が培われるものと思われる。しかし現実には、理論と実践の統合の機会ははなはだ少ない。

本研究は、教育の理論と実践とのこのギャップを埋めるために、現行制度の中で出来うる一試行として、四年間に亘って研究をすすめてきたものである。本研究では、大学の授業で学んだ教育の概論や原理を裏づけたり、またその理解を助けるための具体的な例を数多く集めて、理論と実践との対応関係の中で、幼児と保育についての理解を深めることをねらいとした。

このようなねらいを達成するための方法として、本研究ではシミュレーション的手法を用いた。シミュレーションとは、本研究

の場合、教育現場に似た状況下で、教師としての種々の場面の練習をすることであり、この方法によれば、学生は、保育場面や幼児に対する不安や恐怖感なしに、具体的な問題場面や特に重要と思われる保育場面を抽出して研究することができる。また、適切なフィードバックを得ながら保育者としての経験ができるので、すでに学習した教育理論を保育の実際場面に照合しながら統合して考えてゆけるなど、教授行動の習得・形成の上で、多くの利点をもった方法である。

ちなみに、幼稚園就職前の学生に、不安項目を列挙させたところ、表1のようであった。その内訳は、父兄との接し方、幼児との接し方、教師仲間の人間関係、幼児の指導方法……など、幼児理解や保育展開の問題のみならず、人間関係、種々の保育情報など、保育に関する広範囲のとり組みの必要性が伺えた。そこで、本研究におけるシミュレーションの手法としては、三つの方法——①実態把握と幼児理解のためのビデオ・インフォメーション、②保育計画と実際指導、そして自分の保育の見直しのためのマイクロティーチング、③人間関係の変革と教師行動の具体的理解のためのロール・プレイング——を用いた。教師養成に関する先行研究の中には、右に挙げた方法の一つを単独におしすすめたものはいくつかあるが、三方法を総合的に用いた研究はこれまでになく、それぞれのねらいと効果を組み合合わせて、複雑な教師活動の本質的理解をめざしたところに本研究の特徴がある。

**表 1　就職前学生の不安項目　(1976～1979)**

| | |
|---|---|
| 1. | 父兄との接し方 |
| 2. | 幼児との接し方（けんか，遊び，集中，個人差） |
| 3. | 他の教師との接し方 |
| 4. | 幼児への言葉かけ，話し方 |
| 5. | うた・リズム・楽器に関すること |
| 6. | 絵画製作に関すること |
| 7. | いろいろな導入のしかた |
| 8. | 幼児のけが，病気に関する知識，処理法 |
| 9. | 入園式当日のことや，それまでの種々の準備 |
| 10. | ゲーム・手あそびなど |

## 二、研究目的

シミュレーション的手法を用いることにより、教育の理論と実践との統合化のためのプログラムを開発することをねらいとする。

## 三、研究方法

対象は、短期大学二年次学生で既に幼稚園就職が決定している者一一七名（昭和五十一年五二名、五十二年三三名、五十三年二〇名、五十四年一二名）。

本研究の実施手順は図1に示すとおりであり、シミュレーション的手法として用いた三方法のそれぞれの利用のねらいと課題場面の一覧は表2のとおりである。本研究で採用したシミュレーションの考え方は、カーシュ、タンゼイらのシミュレーション理論を基礎にしているが、三方法の理論的背景および方法の概略は次に述べるとおりである。

(1)ビデオ・インフォーメーション

映像によるモデリング効果については、バンデュラ、オームらの先行研究があるが、本研究では、ビデオの画像を用いて、幼児理解・実態把握や各種の保育場面の情報を提示する。内容として

図1　本研究の実施手順

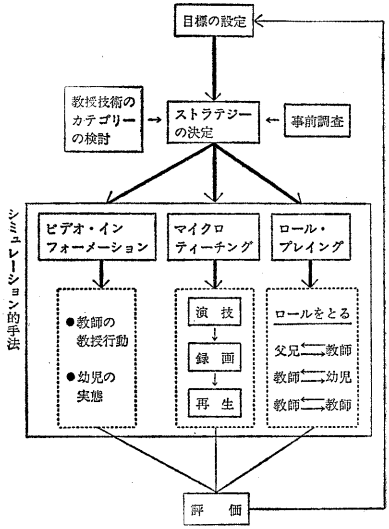



表 2　本研究におけるシミュレーション的手法

| シミュレーションの方法 | 利用のねらい | 研究のための課題場面 |
|---|---|---|
| 1.　ビデオ・インフォーメーション | ●基本的知識の獲得<br>●ポイントをおさえたり，特徴をひろい出す<br>●幼児の実態や園の実態を知る<br>●多様な指導方法を知る | ●体育の基本指導<br>●幼児や園の実態<br>●幼児の個人差<br>●教師（経験者）の実技 |
| 2.　マイクロティーチング | ●客観的に具体的に指導方法の検討をする<br>●教授行動における問題点を明らかにする<br>●教授行動に対する修正フィードバック | ●各教授行動の実技 |
| 3.　ロール・プレイング | ●教材研究を通して，指導技術を高める<br>●重要な情況場面での教師行動の研究<br>●教師行動の実際体験<br>●幼児・父兄の心理や理解力を把握する<br>●自主性・表現力の昂揚<br>●教師としての自覚 | ●各保育場面での教師役<br>●幼児のロール<br>●父兄と教師のロールプレイ<br>●教師同志のロールプレイ |

は、発達段階による幼児の活動や個人差をとらえたもの、体育や音楽の基本指導場面・各種保育場面における指導と展開例などが含まれる。

**(2)マイクロティーチング**

マイクロティーチングは、一九六三年にスタンフォード大学で始められた。これは、教師の実際的練習と授業技術の訓練をねらいとして考案されたもので、教育の理論と実践とのギャップを埋める一方法として発展してきた。マイクロティーチングの特徴として、アレンとライアン（一九六九）は次の点を指摘している。

①教授場面は人為的であるが、そこで行なわれる授業は本物の授業である。

②通常の教室教授の多様性を縮少したもの。

③特定の課題の訓練に焦点をしぼる。

④マイクロティーチングの練習場面では、教授場面の要因を操作できる。

⑤マイクロティーチングでは、教授のあとに多くのフィードバックが得られる。

本研究におけるマイクロティーチングの実施手順は、保育の一場面を抽出して、保育計画の作成→保育→フィードバック→保育計画や指導方法の練り直し→再保育、の過程をくりかえす。

**(3)ロール・プレイング**

ロール・プレイングは一九一〇年前後にモレノが始めたサイコドラマの一方法である。ロール・プレイングでは、現実の問題場面を模擬的に簡単な劇の形で再現することによって、参加者がそれぞれの役割や人間関係などを理解していくものである。本研究では、ロール・プレイングを通して、幼稚園という教育現場における人間関係（すなわち、教師↔子ども、子ども↔子ども、教師↔教師、教師↔父兄、父兄↔子ども）の概要を把握し、それぞれの役割が抱えている問題や相互関係を探究すること、および、保育場面における教師と幼児の関係理解を深めることをねらいとしている。

## 四、研究結果

**(A)シミュレーションの効果と特徴**

本研究で用いたシミュレーションの三方法の、保育における教授行動の訓練・形成に及ぼす効果を、参加者の自由記述によって整理すると次のようになる。

(1)ビデオ・インフォーメーション

①子どもに接する機会が少ないので、幼児の実態把握に役立つ。

②指導方法、教材の扱い方、展開方法がいろいろあることがわかる。

③専門家や先輩の指導方法を見ることにより、指導のポイントが把握できる。

④いろいろの保育技術や保育に役立つ知識を映像と音声によって具体的に確認できる。

(2) マイクロティーチング

①他人に注意・批評されるよりも、教師としての自分の姿を映像から確認した方がよくわかる。

②自分のくせ、声の大きさやスピード、話し方、表情、展開のしかたがはっきりわかり、反省できる。

③自分の保育場面を冷静に客観的に把握できる。

④指導場面や指導方法が種々あることがわかり、また、十分な準備と臨機応変の対応の仕方が必要であることがわかった。

⑤教師役の経験ができたので、子どもの前に立つ不安が少し解消した。

⑥教師としての自覚ができた。

(3) ロール・プレイング

①理論だけでは理解できなかったことが、実際にやってみて少しわかってきた。

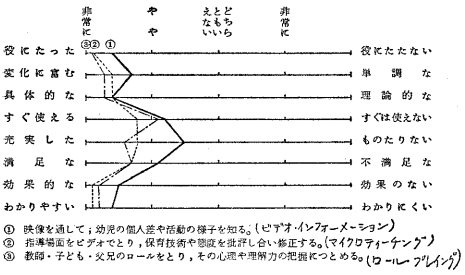
②子ども・教師・父兄の役割をやってみて、それぞれの心理が理解でき、対応のしかたがわかる。

③実際に教師役をやってみて、具体的に指導のポイントや言葉かけのタイミングが体得できる。

④実際に保育場面をやってみて、子どもの状態や反応が理解できるようになった。

⑤場面を設定されることにより、次の展開が予想できるようになった。

図2　三分法の効果比較



⑥指導方法がいろいろあることがわかる。
⑦子ども役をやってみることにより、幼児の心理や理解力の程度がわかる。
⑧保育者という仕事の内容が複雑で多様であることがわかる。

**(B)三方法の効果比較**

シミュレーションの三方法（①ビデオ・インフォメーション、②マイクロティーチング、③ロール・プレイング）の効果を調べるため、SD法で評価させたものが図2である。図のように、①ビデオ・インフォメーションよりは、②マイクロティーチングや③ロール・プレイングの方が、参加学生にとって、具体的で効果的であったことがわかる。これは、受身の形で画像からの情報を受けとるよりは、実際に教師役をやってみたり父兄や幼児の役割をとってみるなどの能動的な体験を通した方が、また具体的なフィードバックを得る方が、教授行動の訓練・形成に効果があることを示している。

**(C)シミュレーションによる教師および幼児についての理解**

マイクロティーチングおよびロール・プレイングが、ビデオ・インフォメーションよりも具体的で効果的な訓練方法となりそうであることは前項で述べた。その二方法を通して、参加学生が教師と幼児のそれぞれについて、教師役割・幼児役割からわかっ

**表 3 「教師」に関するシミュレーションによる理解**

| 教師役からの確認事項 | 子供役からの確認事項 |
|---|---|
| ○子供の興味関心がどこにあるかよく知って子供にわかりやすく，生活に即した話題を投げかけることが必要<br>○多方面にわたる種々の知識が必要<br>○子供の考え方や反応が予想できることが必要<br>○話すことのポイントをしぼって，簡潔にわかりやすく話さねばならない<br>○子供のいろいろな反応や個人差に対処できる柔軟性や臨機応変の指導も大切<br>○一方通行にならぬよう子供を参加させながら展開できるような工夫も必要<br>○子供の前に立つ前に十分な準備と練習が必要<br>○明るい表情・落ちついた態度で，自信をもって子供に接することが大切<br>○話し方，声の調子，抑揚，間のとり方も留意しなければならない | ○子供が興味をもつような話し方や話題が必要<br>○わかりやすいことばで話してほしい<br>○子ども1人1人を認めて丁寧に扱うことが大切<br>○硬い表情・頼りない態度は，子供を不安にさせる<br>○単調な話し方・無表情はつまらない<br>○明るい声や表情・おだやかな態度が安心できる<br>○子どもは教師の言動をよく見ておりいろいろと感じとっている |

**表 4 「幼児」に関するシミュレーションによる理解**

| 子供役からの確認事項 | 教師役からの確認事項 |
|---|---|
| ○子供は興味をもてば，それをやり易いし，やってみたい気持になる<br>○子供は先生をよく見ている。見たことを覚えることが多い<br>○子供は，先生に自分をみとめてもらいたいと思っている<br>○先生が一方的におしつけるような話し方をしてくると，反発したくなる<br>○先生のわかりにくい言葉や難しい話はつまらない | ○子供は興味がないことにはあきてしまう<br>○子供は教師のするとおりまねをし吸収する<br>○大人のことばのままでは通じない（見体的なことばや例が必要）<br>○子供は，教師の予想外の反応や言動をすることがある<br>○子供を教師や教材の方へ集中させることは大変である<br>○子供は，一度にたくさんのことは覚えられない。（毎日少しずつ，徐々に，段階を追って指導することが大切） |

たことを整理したものが表3及び表4である。

「教師」に関していえば、たとえば、「幼児の発達段階と保育方法の関連の重要性」を理論的には理解していた学生達が、二方法を通して、体験を通して、表に述べるような具体的な理解を深めた。また、「保育の複雑性・多様性・困難性」についても、マイクロティーチング、ロール・プレイングの実践が、幼児の行動の予測と対処の方法把握に役立つことが示された。

「幼児」に関しても、二つのシミュレーション的手法を通して、学生は、幼児の状態や能力について実際場面で理解でき、さらに、幼児が教師をどのように把握しているかを知ることができた。

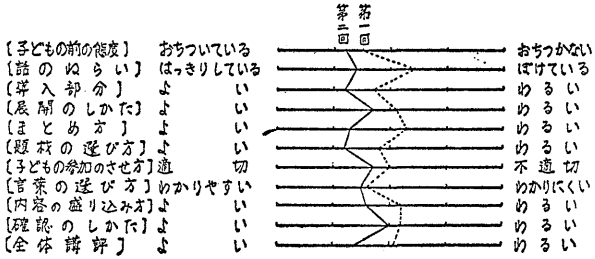



図3 マイクロティーチングにおける変容

表5．シミュレーションの三方法のねらいと効果の一致度

| シミュレーションの方法 ＼ 期待される利用のねらい | | 1 臨機応変の考え方や行動の必要性を知る | 2 種々の保育技術や知識の獲得 | 3 幼児の心理や状態の具体的把握 | 4 指導上のポイントの把握 | 5 自分自身の所作や保育技術の確認 | 6 相手の心理や考え方の把握 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ビデオインフォメーション | 体育の基本指導 | 9% | 41 | 18 | ◎ | 0 | 0 |
| | | 0% | 5 | 0 | 32 | 0 | 0 |
| | | | | | 95 | | |
| | 幼児の個人差 | 0 | 5 | ◎ | 50 | 0 | 0 |
| | | 0 | 0 | 45 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | 100 | | | |
| マイクロティーチング | | 0 | 0 | 0 | 0 | ◎ | 0 |
| | | 16 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 |
| | | | | | | 84 | |
| ロール・プレイング | | 21 | 5 | 0 | 11 | 0 | ◎ |
| | | 75 | 0 | 0 | 0 | 0 | 63 |
| | | | | | | | 25 |

（◎は研究者の意図、上段は実施前、下段は実施後の結果を示す）

### (D) 教授技術の変容

マイクロティーチングによる教師の教授技術（ここでいう技術とは、単なるテクニックではなく、保育者としての配慮・態度・必要な指導技術までを含んだものを指す）の変容をみるため、二回の教授場面を評価したプロフィールが図3である。この際、第一回の後、学生へのフィードバック源としては、ビデオ画像・自

己評価・他の観察者からの批評・指導者からの助言があり、その後に二回目の教授を行なった。その結果、ねらいの明確化、内容の展開のしかた、まとめ方について、二回の教授場面間に大きな差があり、また他の項目に関しても二回目の方にプラスの変化がみられた。

**(E)シミュレーションのねらいと効果の一致度**

三方法によるシミュレーションが、筆者の意図した利用効果をあげているかどうかを検討するため、課題提示前の予想と提示後の調査を行なったものが表5である。これらの結果から次のことがいえる。「シミュレーションの手法として用いた三方法は、それぞれ研究者の意図した利用のねらいと利用者の使用効果とが一致しており、三方法は教授行動の変容にそれぞれ有効な手段であるといえる。すなわち、この三方法は、それぞれのねらいに応じて組み合わせて用いることにより教授行動の訓練・形成に効果がある。

**(F)シミュレーションによる幼稚園のイメージの変化**

図4　シミュレーション前　①幼稚園の子ども　②幼稚園の園長や主任　③幼稚園の父兄

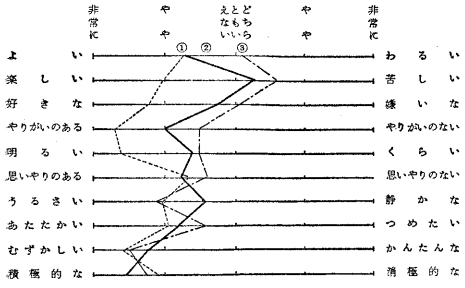



図5　シミュレーション後　①②上に同じ③

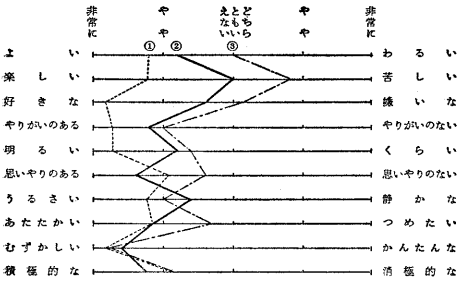
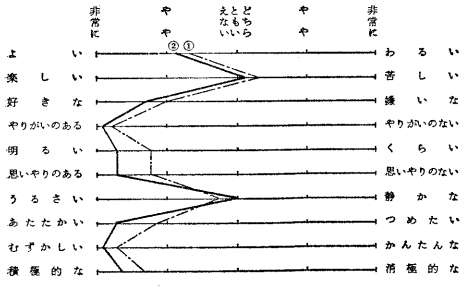



図6　幼稚園教師のイメージ　以下①シミュレーション直前　②シミュレーション直後



幼稚園就職前の学生が幼稚園にどのようなイメージをいだいているかの調査を、シミュレーションの前後に行ない、さらに一年後にも行なった。幼稚園の子ども・教師・父兄・園長や主任の四概念についてSD法で測定した。まず図4はシミュレーション前のイメージであり、就職直前の学生の不安と期待の実態を示しているが、特に「③幼稚園の父兄」をマイナスイメージでとらえている。さらにシミュレーション前後の変化については図5から図9に示すとおりであり、幼稚園の教師・子ども・教師については、シミュレーション後のプラス方向への移動がみられるが、幼稚園の父兄（図7）に関してはわずかではあるがマイナス評価がみられた。これらの結果は、シミュレーションを通して、幼稚園教育に関するマイナスイメージをプラス方向に変化させることの可能性を示していると同時に、「幼稚園の父兄」に関しては就職前の学生の疑問がまだ残されたままであることを示している。さらに、幼稚園就職一年後のイメージ調査（図10）では、就職前のイメージが変化しており、職場で毎日顔を合わせる園長や主任に

図7　幼稚園の父兄のイメージ

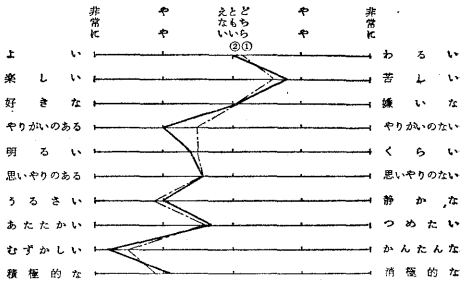



図8　幼稚園の子どものイメージ

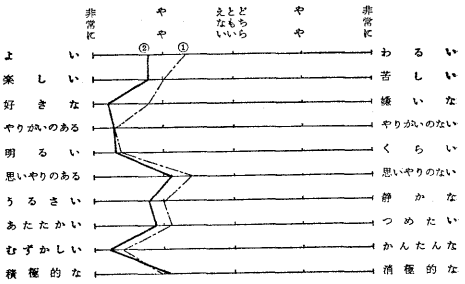



図9　幼稚園の園長や主任のイメージ

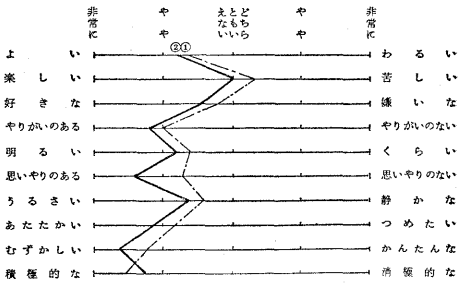
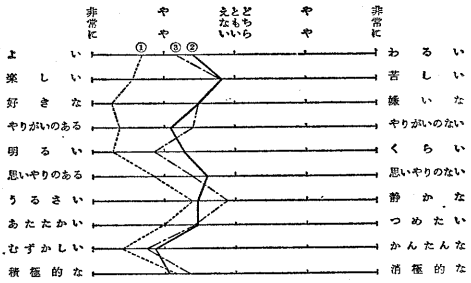


図10　幼稚園就職一年後のイメージ

①幼稚園の子ども
②幼稚園の園長や先生
③幼稚園の父兄




対してマイナスイメージが最も顕著であった。

## 五、まとめ

以上の結果から、次のことが明らかになった。

①今回用いた三つのシミュレーション的手法は、それぞれのねらいと課題場面に合わせて用いることにより、複雑な教授行動の訓練・形成に効果がある。

②ビデオ・インフォーメーションは、具体的な映像モデリングを通して、学生の幼児理解や指導上のポイント把握に有効である。

③マイクロティーチングを通して、学生は、保育の設計・実際指導・フィードバックによる保育の見直しを行なうことが出来、教授技術の習得と自己修正・保育の設計と再編成など、教授行動の全体的理解を深めることができる。

④ロール・プレイングにおいては、人間関係の具体的理解、教師としての留意点の把握、幼児の心理と行動の理解に役立つ。

⑤保育の詳細な面まで、シミュレーションを通して確認・理解できるので、学生は、教師としての意識をたかめることができ、また、それぞれの保育場面や幼児の状態に適合した教師のかかわり方や指導方法を体験・確認できる。

⑥教師としての漠然とした不安が、シミュレーションを通して具体化するので、保育者として必要な教授技術やその他の諸準備を再検討でき、教師としての自己変革をめざすことができる。

以上のことから、保育者養成における教育の理論と実践との統合のための一方法として、三方法を組み合わせたシミュレーションを使うことができそうである。今回の試行は、就職前の学生が対象であったが、この方法は、教育実習前のポイントの明確化や教育実習後の整理・確認のためにも適用できそうであり、さら

に、園内研修（現職教育）においても適用可能であると考えられるので、さらに研究を深めていきたい。

阿部智江（青山学院女子短期大学）
志賀政男（青山学院大学）

〔参考文献〕

Allen, D.W. & Ryan, K.A. (1969) *Microteaching*, Addison-Wesley; (笹本・川合訳マイクロティーチング教授技術の新しい研修法、協同出版、東京)

Bandura, A., Ross, D. & Ross, S. A. (1963a) Imitation of film-mediated aggressive models. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 66, 3-11.

Bandura, A., Ross, D. & Ross, S. A. (1963b) Vicarious reinforcement and imitative learning. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 67, 601-607.

Borg, W.R. et al. (1970) The minicourse: A A microteaching approach to teacher education. Macmillan Educational Services, California.

Kersh, B. Y. (1961) The classroom simulator: An audiovisual environment for practice teaching. *Audiovisual Instruction.* 447-448.

Kersh, B.Y. (1962) Simulation with controlled feedback: A technique for teaching with the new media. Teaching Research Division. *Oregon State System of Higher Education.*

Kersh, B. Y. (1963) Classroom Simulation: A new dimension in teacher education. Teacher research Division, *Oregon State System of Higher Education.* (NDEA Title VII, Project No. 866)

Kersh, B. Y. (1965) Classroom simulation: Further studies on dimensions of realism. (title VII, Teaching Research Division, Project No. 5-0848)

Orme, M. E. J. (1966) The effects of modeling and feedback variables on the acquisition of a complex teaching strategy. Doctoral dissertat Stanford University.

大嶋三男編（一九七五）現代教育と情報科学、第一法規　東京

Tansey, P. J. (1971) A Primer of simulation; its methods, models and application in educational processes. in Tansey, P. J. (ed.) *Educational aspects of simulation.* 1-25, McGraw-Hill, London.